



代替大会開催におけるガイドライン

一般財団法人関東大学バレーボール連盟

代替大会開催におけるガイドライン(案)

目次

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. はじめに | 6. 企業関係者へ向けて |
| 2. 感染リスクについて | 7. 報道関係者へ向けて |
| 3. 大会の開催について | 8. 審判員へ向けて |
| 4. 大会関係者への取組 | 9. 感染者への取組 |
| 5. チーム関係者へ向けて | 10. 運営者の取組 |

1. はじめに

リーグを開催するにあたり、

公益財団法人日本バレーボール協会による

「バレーボール競技に関わる大会等の再開時のガイドライン」

を遵守することとする。

また、本資料では

「試合開催におけるガイドライン」を踏まえ、大会参加者及び大会運営者は熟読すること。

2. 感染リスクについて

【バレーボールにおける感染のリスク】

バレーボールは競技者自身が相手と接触して行う競技ではないが、1つのボールを介して競技を行う。そして1コート（18m×9m）の中に12人のプレーヤーを含む為、試合をした選手全員が濃厚接触者となる可能性が高い。

また、直近の試合のチームメイト、対戦相手に感染者が出た場合、チーム全員が濃厚接触者となる可能性が高くなり、経過観察が必要になる事が考えられる。

2. 感染リスクについて

【選手個人のリスク】

高強度・長時間の運動により、免疫機能が一時的に低下することが知られています。

新型コロナウイルスに対する免疫応答は現在研究が進められている段階で不明な点が多々ありますが、これまでの風邪対策の知見を参考にすると、
激しい運動による免疫機能の低下は可能な限り避ける、もしくは低下後の免疫機能の回復を促進させることが重要です。

独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター
「新型コロナウイルス感染症対策としてのスポーツ活動再開ガイドライン」より引用

<https://www.jpnssport.go.jp/hpsc/Portals/0/katudousaikaiguide.pdf>

2. 感染リスクについて

【リスクの予防について】

前の資料にもある様に感染リスクの伴い、大会参加者及び運営者はここで示す、**ガイドラインを遵守**すること。

また、通常の公式戦に近い形で試合を設定するが、コート設営や試合時間の設定など感染対策を第一に行うこととする。

また、個人の取り組みとして、こまめな**手洗い・うがい・消毒の実施**に協力することとする。

3. 大会の開催について

【大会開催・中止判断について】

大会開催条件

- ・ 大会期間に、緊急事態宣言が発令されていないこと
- ・ 参加チームのエントリーが正規にされていること
- ・ 参加チーム及び会場で感染症対策が十分に行われていること
- ・ 運営代表者及び参加者がガイドラインを遵守していること

3. 大会の開催について

【大会開催・中止判断について】

中止判断

緊急事態宣言が出された場合、大会期間中に感染者が拡大し学連役員及び競技委員会が
続行不可と判断した場合は中止する。

【男子】

- ・ 全チームが全試合を終了していれば公式な順位をつけることとする。
また、大会期間中に棄権チームが1, 2週等のみの棄権でその後出場可能になった場合は、
予備日を使い極力全日程の消化に努める。

【女子】

- ・ 競技委員会で以降の試合の続行が不可能とされた場合や、途中で棄権チームが多数発生し
以降全ての試合に参加できない場合はその時点で大会は中止する
- ※予備日を含め全チームが70%以上の試合を終了していれば公式な順位をつける事が出来る。
- ・ 大会期間中に感染者が拡大し学連役員及び競技委員会が続行不可と判断した場合は中止する。

4. 大会関係者への取組

【大会期間前の対応】

・大会運営関係者・チーム関係者には

- ① 2週間前から「ONE TAP SPORTS」（体調管理チェック機能）
の記録
- ② 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロード

※ COCOAについては正常に動作するよう設定を行っておくこと。

以上による、体調管理を行うこととする。

4. 大会関係者への取組

【大会期間時の対応】

今回、（一財）関東大学バレーボール連盟として、感染症対策窓口を開設しました。大会期間前・中・後の体調不良者、また感染症発症者（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）が出た際、報告窓口としてご連絡ください。

（一財）関東大学バレーボール連盟

感染症対策窓口 mail：health@juvf.jp

※感染者が確認された場合、その確認当日に学連の各部担当者から
使用会場の事務局及び対応窓口にご連絡致します。

4. 大会関係者への取組

【大会参加者へ向けた運営者の対応】

- ① 「ONE TAP SPORTS」により、大会2週間前から大会終了後2週間まで管理する
- ② 大会前2週間における以下の事項の有無（全員分）
 - ア 平熱を超える発熱 （37.5度の熱が3日連続で出ていないか）
 - イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常
 - ウ 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、疲れやすい、息苦しい（呼吸困難）等
 - エ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - オ 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方の有無
 - カ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無

⇒ 該当する項目がある場合、勇気をもって参加を控えること
- ③ 大会当日の体温（全員分） ※ 37.4度以下である事

4. 大会関係者への取り組み

【大会参加者へ向けた運営側の対応】

会場入場時に体温が37.5度以上あった対象者に対しては以下の通りとする

- ①再度体温を測り直し、それでも37.5度以上の場合、会場に入場させない
- ②自宅（宿泊先）に一人で戻り待機してもらう
- ③帰宅後また翌朝以降も熱が下がらない場合には、保健所に連絡の上指示に従う
主務は、当該者について帰宅後と翌朝の体温を学連に連絡すること
- ④一緒に来場した選手等に関して、熱や味覚等の症状がない場合は入場を認める
- ⑤熱を出した大会参加者がPCR検査陽性であった場合は、保健所の指示に従う。

PCR検査陰性の場合は、医師と監督の判断により大会への参加を認める

5. チーム関係者へ向けて

(1) 会場入場者の制限について

- ・当日会場に入る事が出来る関係者は
大人のスタッフを含め 1 チーム 30 人までとする
- ・感染症対策のため無観客とする
- ・他チームのデータ収集について、以下の制限を設ける
自チームの試合前・試合後のチームのデータを集める時
→データ収集 **2 人**+監督または大人のスタッフ **1 人**まで
別会場のチームのデータを集める時
→データ収集 **2 人**まで

※ データ収集については、感染症対策に十分配慮しながら行うこと

5. チーム関係者へ向けて

(2) 会場入場時について

- ・ 入場際には**必ずマスク**をしていること、また、入り口の消毒液を使用し**手指の消毒**を行い入場すること
- ・ 入場したら、受付に行き**検温を済ませる**こと
- ・ 検温を済ませたら速やかに、**自チームの待機場所へ向かう**こと

※ 移動経路については運営者からの指示に従うこと

5. チーム関係者へ向けて

(2) 会場入場時 (チーム入場時刻)

入場時の混雑を防ぐため、以下の時間を設定する

この時間に各チーム入場すること

第1試合 関係者 9:30 入場 (11:00試合開始)

第2試合 関係者 13:00 入場 (14:30試合開始)

※ただし会場によって異なる場合もある

バスの使用による関係で選手及び学生が会場に早く着いた際には、
補助役員及びデータ収集にあたる学生は速やかに移動すること。その他の学生については
第1試合のチームと入場時間と被らないよう、少しずらし指定待機場所待機すること

5. チーム関係者へ向けて

(3) 大会参加時の注意事項

○ 原則、全員マスクを着用すること

※ 例外として認めるのは、試合を行っている選手及びベンチスタッフ

モッパのマスク着用については、**チーム判断**とする

- ・ ギャラリー一席での応援も、**マスクを付け行うこと**

大声での応援は禁止とする

また、立ち位置や座席の位置によって人との空間をとること

※ **熱中症対策でこまめに水分補給は行うこと**

5. チーム関係者へ向けて

(3) 大会参加時の注意事項

- ・控え室及びギャラリーは、各チーム割り当てられた場所を使用すること

※ それ以外の場所を使用したい時は、学連に相談すること

- ・使用した座席、場所は可能な限り**消毒を行う**こと

※ 使用した場所は最後まで責任を持って、処理をすること

- ・ゴミは会場に捨てず、**各自で必ず持ち帰ること**

鼻水、唾液などが付いたゴミを処理した後は、**手洗い・消毒**を行う

5. チーム関係者へ向けて

(4) 控え室、更衣室等の使用方法

- ・ 密集しないように、各チーム少人数で使用すること
- ・ 昼食前後には必ず手洗い・うがい・手指の消毒を行うこと。
食べる時は、人との距離をとり食べること。その際、マスクは衛生的に管理すること。(放置しないこと)
- ・ ゴミなどは残さず、可能であれば使用したところは各自で消毒する。

5. チーム関係者へ向けて

(5) 大会終了時の取組

- ・ ゴミは会場に捨てず、**各自で必ず持ち帰ること**

鼻水、唾液などが付いたゴミを処理した後は、**手洗い・消毒**を行う

- ・ 大会終了後 2 週間まで健康チェックを行うこと

なお終了後 2 週間以内に発症した場合は、**学連窓口まで速やかに**

報告すること

5. チーム関係者へ向けて

(6) 競技上の注意事項

- ・待機場所は必ずギャラリーの指定された場所か、指定された控え室で待機すること。ウォーミングアップは**スペースがあっても行わない**
- ・フロア開放時は、入り口の混雑を防ぐこと。

《第2試合のチームへ》

- ・第2試合のチームは受付で検温終了後、**速やかに**待機場所へ向かう
- ・前の試合が終わっても、フロア開放の指示があるまで**ギャラリーで待機**すること（試合終了後の選手との接触は避ける事）

5. チーム関係者へ向けて

(6) 競技上の注意事項

- ・ベンチスタッフ・モッパ―は必ず、人との距離を取ること
- ・タオル、水ボトル、アイシングバッグなどの**共用禁止**
- ・原則、シューズ裏を手で拭かない

(自チームベンチ横に濡れ雑巾などを用意していいが、その際、**競技中のけがに繋がらない事**や、**使用後の後処理も必ず行う事**)

- ・競技中のハイタッチをできるだけ控える
- ・応援者は間隔をとり、**マスクを着用**して行うこと

5. チーム関係者へ向けて

(7) 試合終了時の注意事項

- ・ 終了後の換気・消毒作業中は試合チームのクールダウン時間とする。
- ・ 学連からのフロア撤退のアナウンス後は一斉にコートから出ずに、
出入り口の混雑を防ぐこと
- ・ ミーティングを行うのは、3密を避けて行うこととする
- ・ **試合終了後、速やかに会場から出ること。**

6. 企業関係者へ向けて

- ・ 事前に申請を行い、大会2週間前から体調チェックシートを記載し、大会**当日提出**する。
- ・ 入場人数は各企業1名までとする。
- ・ 受付にて、**検温・IDを受け取り**会場へ入ること。また、**入退場時の時刻を学連員（受付）に記載**してもらう
- ・ チームの待機場所以外の場所でマスクを着用し試合を観覧すること

7. 報道関係者へ向けて

- ・ 事前に申請を行い、大会2週間前から体調チェックシートを記載し、大会当日提出する。
- ・ 受付にて、検温し会場へ入ること。また、入退場時の時刻を学連員（受付）にて記載してもらう
- ・ 入場人数は各報道機関1名までとし、今季はフロアでの撮影は禁止とする。
（配信を行う企業は学連に相談し会場との兼ね合いを含め、必要最低人数で行うこと）
- ・ インタビューをする際は、可能な限り電話等の接触しない方法で行うこと。
なお、直接行う場合はマスクを着用の上、十分な距離を保ち行うこと。

8. 審判員へ向けて

- ・ 2週間前～大会期間中「ONE TAP SPORTS」（体調管理チェック機能）
の記録
- ・ 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）より、濃厚接触の有無を受付
にて確認
- ・ ミーティングの時間は試合開始時刻の1時間前とする。
- ・ ミーティングを行う際には、3密を避けて行うこと。

9. 感染者への取組【チーム関係者】

(1) 体調不良を抱える人へ

感染症を広げない為には、体調不良を感じた際

①体調の変化を無視せず、チーム関係者へ相談すること

②体調不良の際、速やかにチーム関係者および運営者へ報告すること

以上のような個人及びチームでの判断・報告が大切になります。

感染症は、いくら予防していてもかかってしまう恐れがあります。

私達は、大会に参加する皆様の感染予防の取組を最大限考慮した上で、大会を開催します。**“感染者を増やさない”**ためにも、体調不良時には参加できない旨をお伝えください

9. 感染者への取組【チーム関係者】

(2) 入場不可とする人の基準

- ・「4. 大会関係者への取組【大会参加者へ向けた運営者の対応」
を満たしていない者、または同項目②の中で当日1つでも該当する項目がある者（37.5度を超える者を含む）
- ・チーム関係者の制限人数を超えた者

※ 事前に補助役員の人員として依頼された者については、チームとしての人数を加算しないものとする。

9. 感染者への取組

(3) 感染の疑いがある場合

- ・ 速やかに、チームの代表者及び学連員に報告し、保健所に連絡し指示に従うこと。

なおその際の移動は、出来る限り公共交通機関は使用せずに移動する

- ・ 病院への受診結果が出た際も 学連の専用窓口に診断結果を報告する



《学連連絡先》

感染症専用窓口

mail : health@juvf.jp

9. 感染者への取組

【陽性者・濃厚接触者への対応】

- ・陽性者及び濃厚接触者については、保健所の指示に従うこと
- ・大会運営者は濃厚接触者の確認・伝達をすること
- ・チーム関係者は、該当者について学連に随時経過観察を報告すること

～大会復帰基準～

- ①保健所の許可が下りていること
- ②所属大学から参加を許可されていること

以上2点を満たしたうえで大会への復帰を認める。

10. 運営者の取組

(1) 競技運営時（受付）

- ・大会参加者の検温の実施
- ・新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）より、濃厚接触の有無を確認
- ・入り口の常時開放
- ・各種許可証の貸出禁止（企業IDはリーグ開始前・使用後に毎回消毒する）
- ・使用物品（筆記用具、机等）についてはこまめに消毒をする。
- ・第2試合のチームが入場し始めた際、控え場所（待機場所）の声掛けを行う
- ・第2試合のチームがウォーミングアップを行わないよう、受付で声をかける必ず、ギャラリーでの待機を伝える

10. 運営者の取組

(2) コート設営・試合設定

- ・ 1 コート **最大4チーム**の使用とする

- ・ 試合設定時刻は以下の通りとする

【第1試合】 試合開始 **11 : 00**

【第2試合】 試合開始 **14 : 30**

フロア開放 13 : 30

フロア開放後 45 分間の練習後プロトコールを開始する

※ただし会場によって異なる場合もある。

※ 1 試合目が長引き、第2試合が試合設定時刻に開始できない場合は学連より
アナウンスを行う

10. 運営者の取組

(3) 競技運営時

- ・ 試合開始時の挨拶は、両コートエンドライン上で行う
(ネット付近に集まり、握手などはしない)
- ・ ベンチは最大7席とし、スタッフの椅子との距離を最低1席分は開けること
- ・ ウォーミングアップエリアは、会場によって異なるが、最低でも **16 m²以上**の空間を作ることとする。(控え選手が密集しないようにする為)
- ・ セット間で、チーム関係者の手指や試合球、筆記用具などの消毒を行う

10. 運営者の取組

(4) 競技終了後

- ・ 試合終了後、速やかに次の試合についてのアナウンスを行う

※ 1 試合目が長引いた際は、第2試合の試合開始時間を含むアナウンスをする

- ・ **試合終了後約 15 分間の消毒作業および換気を行う**
- ・ 使用した消毒用具・ビニール手袋等をまとめ、別途ゴミ袋に捨てる。
- ・ 試合後の手洗い・消毒の呼びかけを行う
- ・ 補助役員に手伝ってもらい、ビニール手袋を着用し消毒・換気作業を行う
(点示・ボール・モップ・審判台・ネット・机等、その他使用した箇所)
その間、次の試合のチームをフロア内には入れてはいけない。

10. 運営者の取り組み

(5) 審判運営について

- ・可能な限り、主審・副審を派遣して行う

※ ただし、派遣が難しい場合は、補助役員に該当するチームの有資格者が審判を担当することもある。

- ・補助役員として事前に依頼された者は1 チーム制限人数（30人）を超えて入場することが出来る。なお、補助役員を依頼された者は、学連から配布される証明書を身に付けること。

10. 運営者の取組

(5) 審判運営について

審判を行う者はマスクと使い捨て手袋の着用を必須とする。
それぞれ以下のように対策、対応を行う。

○主審・副審

→出来る限り電子ホイッスルを使用する。（学連が準備する）

○ラインジャッジ

→各大学がフラッグを持参する。

○スコアラー、J V I M S

→各大学で筆記用具（青ペン・定規・修正テープ・シャーペン・消しゴム等）
を持参する。

接触箇所（机、椅子、P C、マウス）においては、セット間及び試合間に
こまめに消毒を行うこと。

○ボールリトリバー

→雑巾を使用し、ボールの拭き取りを常時行うこととする。

10. 運営者の取組

(6) 控え室・更衣室等の設置方法

- ・選手が使用する控え室の大きさにより、人数を制限し**密集させない**ようにする
- ・常時、開放できる窓やドアを開けておく。
- ・机や椅子などの配置を工夫し、1.5～2 mの距離を確保する
- ・学連が消毒液を設置する。時間を決め学連員が消毒作業を行う。

10. 運営者の取組

(7) 会場の環境整備

- ・ 会場の出入り口、フロアの出入り口等に**消毒液の設置**
- ・ トイレ・手洗い場に**石鹸・ペーパータオル・ペーパータオルを捨てる
ゴミ袋の設置（時間を決めて定期的に交換を行う）**
- ・ 使用する部屋のドアノブ、机、椅子やギャラリーの手すり等、共同使用部分は
定期的な消毒を行う
- ・ ゴミを扱う際は**ビニール手袋を必ず着用**の上、処理を終えたら手洗い・手指の
消毒を行う